
深空ノ龍ノ帝国（しんくうのりゅうのていこく）

久蘭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

深空ノ龍ノ帝国 チマクノコウノオホキョク

【Nコード】

N8154H

【作者名】

久蘭

【あらすじ】

カルバートの地の中原に、金の髪と蒼穹の目を持つ牧童の少年がいた。遊牧の途中、少年を密かに慕う少女に災難が訪れた時、少年は無力だった。そして少年は、無力な自分への怒りの刃を力に変えて、今、覇者として立つ。

vermillionの古代史の設定を物語化してみました。

龍卵の章 1 (前書き)

【作者コメント】

全面的に書き直します。

この前の文章は忘れてください。

少年は、蒼穹を見上げる。

冬枯れした草原のような黄金の髪と、高い空を映したような青い瞳を持つものなど、同じ部族にはいない。いや、たとえこのカルバート大陸の全土を見回したところで、人の身でそのような色と目を持つなど、聞いたことがない。

ヴァルは牧童である。十歳になるまでアギール族の中で野辺の魔術師である叔母と暮らしていたが、叔母が旅に出してしまうと、族長の牧童として正式に雇われて族長の全ての羊のうち、十六分の一を任された。

その後二年、年長の族長の七番目の息子と二人で遊牧したが、彼が戦士として騎馬軍に加わって後は、一人で遊牧の旅に出なければならなかった。そしてさらに二年が過ぎた。

アギール族は誰一人、少年のその容姿を差別する者などいなかった。

ただ一つ、噂があった。

少年の母は、青き龍たる戦神タルラに愛を受けたのだと。

東の方を見回した。

アーレンデイラ姫が、退屈してそちらのほうに野いちごを摘みに行ってしまった。早く帰ってきてくれればいいと思いつながら、野営に備えて、焚きつけの小枝を集める。煙を上げれば、目印になるので、姫も迷わずにすむだろう。

そうしていると、アギール族の旗印を掲げた馬が数頭駆けてきた。ファイサド將軍と、その一隊である。

將軍の前に、少女が抱えられて座っている。

「おてんば娘さんを拾ってきたぞ」

ヴァルはその少女に手を貸して下ろす。

ラーフェドラス王国第八王女アーレンディラ姫が、王弟シャードール公とともにこの草原に来たのは、二年ほど前になる。ヴァルよりさらに一つ年上の姫は、本来なら政略結婚の渦中にいるだろうに、女らしい仕事も何一つ覚えず、こうしてヴァルの遊牧の旅につきあっている。

王弟シャードール公は、現国王のすぐ下の弟である。

謀反の噂が流れ、罪を問われる前に東方の草原地帯に逃れて来た。その時に、妾妃の母を失ったアーレンディラ姫もともに連れてきてしまったのは、庇護すべき傘を持たない王女の行く末も、自分同様に案じられたからだろう。

シャードール公はそのまま、アギールの民の一人として受け入れられた。ラーフェドラス王国の將軍を務めていた彼は、そのままアギール族の戦士として將軍職を与えられ、ファイサドという名を名乗ることとなった。

そして、アーレンディラ姫は、ヴァルのその容姿に興味を持ち、いつしか遊牧へとついて来るようになった。

「我々は、サルディスカン族の族長に会いに行くところだ」

ファイサド將軍はヴァルに云った。

「今夜は、我らもここで野営しよう。」

お前達もそのほうがいだろう。食料が多少ある。西方の干果実が手に入ったので、あとで少し分けてやろう」

ファイサド將軍の隊と合流して野営する。

十日ほど前に一族の本拠地を出発してより、ひさしぶりに他の者の姿を見る。將軍の隊も、アーレンディラ姫の歌や舞いに盛り上がり、楽しい一夜であった。

早朝、將軍は出かける前に、ヴァルに劍の稽古をつけた。

「まあ、護身用には充分だろう。大分、腕を上げたな。だが、人数が多い時は逃げる。お前はまだ子供だ。無理をしてはいけない」

それなりに、上達を評価してもらえたようである。

「最近、バルシア族が縄張りを広げようと戦をしかけてくる。」

だから、あまり南のほうに行くと、戦に巻き込まれるかもしれない。注意しろ」

そう言い残すと、將軍はサルディスカン族の縄張りに向かって隊を進めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8154h/>

深空ノ龍ノ帝国（しんくうのりゅうのていこく）

2010年10月8日15時34分発行